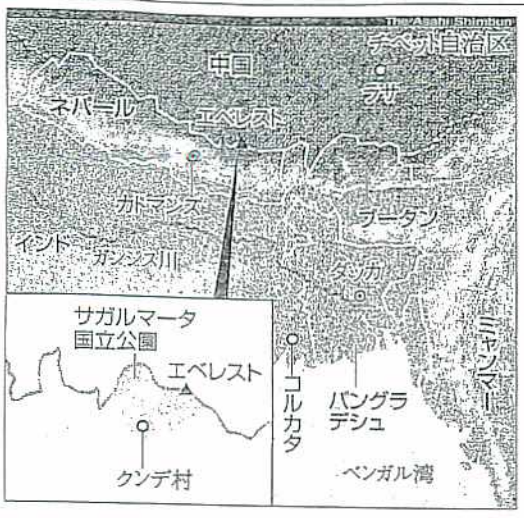
新聞定価 朝夕刊月ぎめ 3,925円(本体価格 3,738円、消費税 187円)、1部売り(税込み)朝刊 130円、夕刊 50円　第3種郵便物認可

山の民「天気が変」

突然 洪水・土砂崩れ

高地の暮らし　ヒマラヤの人々　1



ヒマラヤはいま、「渋滞」の季節だ。

エベレスト（8848㍍）などの名峰を連ねるサガルマータ国立公園（ネパール）は、毎年約2万人に上る観光客のほぼ半数が、乾期で好天の続く10～11月に集中する。「エベレスト街道」と親しまれるトレッキングルートは、常に他人の背中を見ながら歩く状態だ。すれ違い、追い越しながら、「ナマステ（こんにちは）」とあいさつを交わす。

■　■

この国立公園の中にあるクンデ村で7月10日、大規模な土石流があった。人や家屋への目立った被害はなかったが、3家族のジャガイモ畑などが流され、隣村の学校へ続く唯一の道が土砂に埋まり不通になった。

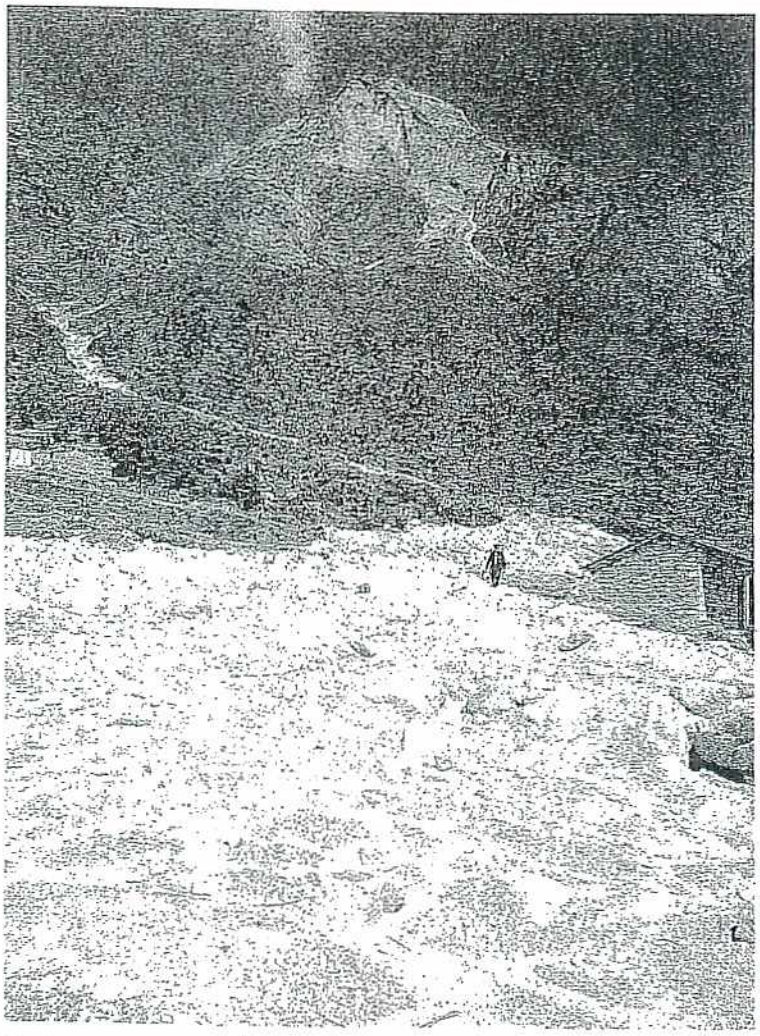
村の病院に勤めて25年になる医師カミ・テンバさん(50)によると、土石流は夜11時ごろ起きた。

「寝ていたところを、看護師の電話で起こされました。窓の外から激しい雨音と、雪崩のような、うねる音が聞こえた」。急いで外へ出た。ふだんは水が枯れている川を、岩と泥と砂の濁流が走っていた。「大雨のときだけ、ちょろちょろ小さい流れができる程度の川。こんな災害は、私が村に来てから一度もない。村人も40～50年ぶりだと言っていた」。現地のテレビ報道を見た人もいるが、詳しい被害データや原因は分かっていない。

■　■

土石流の情報は、村出身でカトマンズに住む建設会社社長のハクパ・ギャルブさん(50)からすぐ、旧知の安成哲三・名古屋大教授（気象学）に写真付きの電子メールで「こんな洪水はこの半世紀で初めて」と伝えられた。安成教授は今月、現地調査にやって来た。

ヒマラヤを含むモンスーン地帯の気象に詳しい安成教授は25日、カトマンズで開かれたヒマラヤの気候変動についての研究会で、「7月10日深夜に集中豪雨があったこと



クンデ村の洪水跡。後方のクンビラ山から白い筋が続く＝ネパール東部のクンブ地方で、冨岡写す

が、事前に調べた衛星画像と現地の観測データ双方で確認された。地球温暖化の影響は、豪雨や豪雪など極端な気象現象に強く出る。さらに調べたい」と語った。

「最近、天気が変だ」。ヒマラヤに暮らす人々の間でささやかれている。乾期と雨期の境目がはっきりしなかったり、数十年ぶりの洪水や土砂崩れが突然起きたり――。

「グローバル・ウオーミング（地球温暖化）か？」と、ネパール語なまりの英単語が山の民シェルパの口をつく。だが、交通や通信手段が限られる山間部の災害は、発生したことすら行政機関に伝わりにくい。ネパール水文気象局のオム・バジュラチャリャ研究員は「住民からの情報提供に頼っているのが現状です」と話す。

×　×

名古屋大学の氷河調査に同行したヒマラヤで、高地に暮らす人々を取材した。

（カトマンズ＝冨岡史穂）